

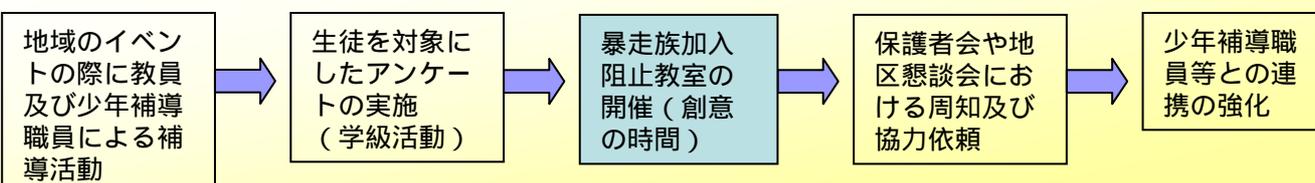
事例1「地域団体等と連携して暴走族への加入阻止を図る取組」(中学校)

取組のポイント

・本取組は、学校において暴走族加入阻止教室を実施するとともに、事前・事後において、日頃からの活動として、地域と連携した補導活動などを積極的に実施し、暴走族等とのかかわりがないよう指導するとともに、これらの活動を通じた啓発活動を実施していることによって、地域ぐるみで暴走族加入阻止を推進している点の特徴である。

・暴走族は、交通上の危険のほかグループ同士の対立や一般人を巻き添えにした集団不法事案などを起こしている。また、暴走族は毎年世代交代を繰り返しており、中学生が卒業後暴走族に加入するケースもみられることから、各学校の実情等に応じて、こうした「暴走族加入阻止教室」を実施することが重要である。

活動の流れの概要



教育課程上の位置付け

事前指導におけるアンケートの実施(学級活動)

「暴走族加入阻止教室」の開催(学級活動)

実施までの経緯

・暴走族については、グループ数が増加しているだけでなく、暴力団を後ろ盾として広域化、連合化するなど、憂慮すべき状態である。また、暴力団が暴走族の少年から一人当たり毎月数千円を納めさせているほか、将来的には組員として引き込んでいるという実態もある。

・暴走族構成員の多くが中学校卒業後の少年である。これらの少年は、出身中学校ごとに十数人でグループを結成していることから、中学校などの段階で、暴走族の違法性などを理解させ、暴走族への加入を阻止することが急務となっている。

・こうしたことから、県警本部においては、ポスターの作成や暴走族相談員(暴走族加入阻止や脱退者のアフターケア、住民からの暴走族根絶に関する相談活動等を実施)の配置等を進めている。さらに、「暴走族根絶の促進に関する条例」を施行し、中学校・高等学校における暴走族加入阻止教室の実施が盛り込まれたところである。

・県内の各警察署では、暴走族加入阻止教室の開催を学校に呼びかけている中、本学校においても、暴走族の危険性や犯罪性を認識させるため、暴走族加入阻止教室を実施することとなった。



事前の取組

地域の祭りにおける補導活動

・例年暴走族が暴走行為・爆音走行を繰り返している地域の祭りの夜に、中学生が暴走族と関係をもたないよう教員及び少年補導職員による巡視を行った。

・補導活動を実施するに当たって、警察や少年補導職員等などの関係者と十分に事前打ち合わせを行い、補導活動の実施範囲、声かけの仕方、トラブルの際の対処方法などについて周知すること



アンケートの実施

・暴走族加入阻止教室において、適切な指導を行うために、生徒の暴走族に対する意識の現状を把握することが重要であることから、各学級で生徒に対して、暴走行為、迷惑走行、暴走族の実態・組織と構造等についての意識調査（アンケート）を実施した。

・アンケート項目については、関係者のプライバシーや適切な教育内容に基づいたものが確認すること

・アンケートの集計後、その結果を適切に教育指導に生かすほか、生徒個人の回答票の取扱いには十分注意を払うこと

（アンケートの項目例）

- ・暴走族をカッコいいと思いますか 思う 13%、思わない 87%
- ・暴走族は他人の迷惑になると思いますか 思う 95%、思わない 5%
- ・暴走族に入るように誘われた場合、どうしますか 入ると思う 3%、断るのが怖いので入ると思う 5%、断る 92%
- ・暴走族に入るように誘われたことがありますか ある 2%、ない 98%
- ・暴走族の後ろには、暴力団が関与しているのを知っていますか 知っている 32%、知らない 68%

非行防止教室の開催

・警察官から、暴走族の実態、暴走行為の危険性、暴走族と暴力団のつながり等について説明を受けた。

・また、県警本部が作成したビデオを活用して、中高生が巻き込まれているケースもあること、また、暴走族に関して困った時には、県警本部が委嘱する「暴走族相談員」に相談できることなどを理解させるようにした。

<指導の流れ>

・暴走行為は危険な運転で命を失ってしまったり、人の命を奪う行為であるとともに、道路交通法違反に当たるものである。

・暴走族の背後には、「面倒見」と呼ばれる暴力団が存在し、金銭を要求されることが多い。暴力団は、自分の組に引き入れたくて接触してくる場合と、資金源として暴走族グループを利用する場合がある。

実施場所・・・体育館

講師・・・警察署交通課交通指導係長

対象者・・・本学校（中学校）の全生徒

非行防止教室のスケジュール

- ・開会挨拶
- ・ビデオ上映
- ・暴走族の実態についての講話
- ・閉会

・暴走族に引き込まれるパターン（例）

- 先輩からの誘い ・暴走族が出身校の後輩を誘う
- 暴走行為の体験 ・かっこよさを印象付け、逃げられないようにする
- 違法行為への関与 ・恐喝等によって、暴走資金を工面させる
- 暴力団への関係付け ・上納金や、組への加入を強いられる



・暴走族には、集会に参加することだけで引き込まれてしまい、抜けられなくなる。喫煙、飲酒、深夜徘徊などの不良行為や、ごみ散乱、騒音などで周囲へ迷惑をかける行為が目立ち、ひったくりや強盗などの犯罪を集団で犯すケースも多い。集団心理で罪悪感を感じなくなる傾向にある。

・一度こうした暴走族に加入してしまうと、暴力団への上納金の支払いやバイク入手のために、ひったくりや万引き、強盗や恐喝など刑法に触れる犯罪を犯す場合がある。

・離脱したい意志を明らかにすると、脅迫や傷害、ひいては殺人に至るような行為を受けることもある。

・暴走族は危険な犯罪集団であり、社会的に非難される迷惑行為を繰り返すだけでなく、自らや家族の一生に重大な影響を与えるものであり、入ってはいけないということを強く認識してほしい。

・勉強やスポーツ、文化活動などでエネルギーを燃やすことの方がはるかにすばらしいことであり、将来のためにもなることを理解してほしい。

事後の取組

- ・暴走族加入阻止教室の成果を保護者会で周知するとともに、暴走行為や暴走族について情報の提供を要請したほか、地区懇談会等において、暴走行為等が見られた場合、直ちに警察署に通報するように保護者へ協力を要請した。
- ・また、少年補導職員などが学校行事等に参加する機会を一層充実し、少年補導職員と生徒が顔なじみの関係になるように努めている。



本プログラム活用により期待される成果と活用上の留意点

成果

・本取組は、学校が警察と連携して行う暴走族加入阻止教室として、地域とも連携した内容となっており、暴走行為や暴走族に対する問題意識が高まるとともに、暴走行為が社会に与える迷惑や悪影響、暴走族の真の姿や暴力団とのつながりの実態についての理解が深まることが期待される。

留意点

・実際の指導に当たっては、暴走族へのあこがれを潜在的に抱いている生徒は常に存在するという念頭において、暴走族に対する正しい知識と理解の場を適切に設定して、継続的な指導を行うことが必要である。また、地域における暴走族追放の機運の高揚につなげることが重要である。

・このほか、暴走族加入阻止教室の効果を高めるために、発達段階などに適切に配慮しつつ、例えば過去に暴走族に加入していた人の体験を取り上げたり、地域における暴走族離脱のための居場所づくりなどの取組について指導の中で触れるなども考えられる。